

海底に眠る坑道青山河

緋のカンナ炭位ありしこのあたり

本山岬音して落つる秋夕日

松山 大耳

白石 千代

藤井 游歩

【竜王山】

小野田地区の人々の心のふるさととも言える山である。標高1336メートル、三方を海に囲まれている。四季折々種々な見所があり、春は一万本の桜、夏は産地に育成するヒメボタル、秋には「旅する蝶」アサギマダラの飛来がある。中腹には設備の充実したオートキャンプ場があり、珍しい山野草を観察する楽しみも味わえる。また耳観音や子持御前といった、訪れる人に不思議な力を授けるという信仰の力を持つ山にもなっている。

三方の海の朧や峰火台

山本 桂子

虹などもここから見たし竜王山

植高 公明

瀬戸の海風ぎ竜王の黒揚羽

森本 眞智子

約束よアサギマダラは蒼穹へ

平島 照雄

(おすすめ一冊)

幕末「長州」史跡散歩〜一坂 太郎

(文・写真：山本 桂子)

小野田地区

【浜五挺唐樋・当嶋八幡宮・高泊神社】

現在の市役所・小野田駅・市民病院など、今の小野田地区の中心となっている所は、かつては高泊湾という海だった。その広大な海を埋め立てたのが高泊開作である。その当時の萩藩挙げての大事業の遺構が「浜五挺唐樋」であり、高泊神社である。浜五挺唐樋は寛永八年（1668年）に作られた潮止め排水門で、国指定史跡となっている。高泊神社はかつて湾の中にあつた龍王島に干拓の完成を記念して建立された。当嶋八幡宮は五挺唐樋のすぐ側の山がみにあり、干拓成功祈願の神社であつた。

浜五挺唐樋に淀む春の潮

古びたる芭蕉の句碑や落椿

干拓は毛利三白豊の秋

高泊神社空より芽吹きをり

益田 満寿美

石田 妙子

段田 晶雄

香川 真澄

【本山岬】

焼野海岸を南下したところにある周防灘に突き出た岬である。その先端には、「くぐり岩」と名付けられた岩が立っている。干潮の時のみ人が立つてくぐり抜けることのできる穴を抱いた奇岩である。長い年月と海が作り出した芸術品であるろう。またかつてこの地は海底炭鉱の町であつた。昭和38年に閉山するまで炭位が立ち並び、人の出入りの多い所であつたという。

岬なる古りし奥つ城夏薊

中尾 十夜



寢太郎の里の疎水や風光る

五月晴寢太郎民話町おこし

若景風寢太郎像は南向き

寢太郎像歩けとばかり青嵐

落鮎に寢太郎堰てふ難所あり

【物見山公園】

厚狭市街地近くにある小高い丘であり標高72.5メートル。その名の通り平らな頂上からは厚狭盆地が見渡せ、そこには護国神社が建てられている。春には桜、初夏には菖蒲、夏のキャンプ場では小鳥のさえずりが楽しみ、憩いの場として親しまれている。

ふるさとの山河親しも初景色(石碑)

護国社に誰をか待たん桜道

物見山景桜映えて鎮魂碑

物見山慰霊塔映ゆ百日紅

二歩 志芳

原田 照子

長井 幸江

小河 充子

荒木 克枝

重村 蒼生

千々松 八重子

竹野内 進

西山 輝子



# 山陽小野田歳時記

山陽地区

【松嶽山】

市内で一番の高峰標高334メートル。美祢市に隣接する。その山容は地元の県立厚狭高校の校歌に「仰ぐも高き その峰をおのが理想に」と歌われている。またその山の七合目には古い歴史と格式を持つ、真言宗正法寺がある。

護摩焚きの鼓のやみしときほととぎす（石碑）

松嶽のすべてを染める榎若葉

松嶽の峰へと流る天の川

榎田の果てに母なる松嶽山

松岳山すがた隠して時雨けり

松岡 伊佐緒

片山 徹

岡村 一舟

茅壁 滋子

三浦 裕子

【寝太郎伝説】

厚狭地区には「三年寝太郎」という有名な民話がある。3年3ヶ月、仕事もせず寝て暮らしていた男が、ある時急に使命感に目覚め、厚狭川から水を取る堰と灌漑用の水路を作り広大な荒地を美田に変えたという伝説である。神社や像など物語ゆかりの遺跡も数多く残っている。

